

## 英語カリキュラムへの多読指導の位置づけ

— 選択傾向の考察に基づく指導方略 —

中村護光\*・小澤志朗\*・富永和元\*\*

Extensive Reading in the English Language Teaching Curriculum  
—Analyzing student choices of graded readers—

NAKAMURA Morimitsu\*, OZAWA Shiro\* and TOMINAGA Wagen\*\*

An extensive reading project was carried out in order to encourage the development of students' fluency in reading, and its adoption in the English teaching curriculum was considered. In most cases, the teaching style of the English reading classes in our college is intensive, rather than extensive, where much time is devoted to deeper and more accurate understanding of the stories and lessons in the textbooks. As a result, however, the competent students sometimes lose interest in reading because of the relatively slow speed, aimed at the majority of the students. In addition, the students' scores of the TOEIC test show that their ability is less developed in reading rather than in listening. Analysis of students' comments on the extensive reading books confirms that extensive reading greatly enhanced the reading skills of the students and thus heightened their motivation.

キーワード：多読，難易度，読後感，効果

## 1. はじめに

長野高専に於ける英文図書の多読指導は2003年度に始まった。2003年度は1名の教員が個人の研究経費で多読用図書を収集し、個人ライブラリーを開設し、授業を担当するクラスの学生に貸し出していた。2004年度には、英語科のプロジェクトとして取り上げ、校内特別経費（教育分野）配分予算審査に「高専生の英語多読指導」のための図書経費を申請し、70万8千円の予算が認められた。この経費により多読用図書は、従来の個人ライブラリーの図書と併せ総数1,147冊と大幅に増加した。また、これを機に図書館の協力を得て、同年12月の後期中間試験以降、多読用図書はすべて閲覧室に配架され、学生は図書館で自由に本を手に取り読めるようになった。また同時に一部を除いて、ほとんどの多読用図書は、図書館のカウンターから貸出が可能となった。

英語科では、科会で多読への取り組みについて意見を交換し、学生の読解力育成の面で効果が期待できることを確認した。まず学生に多読を奨励するために、低中学年（1, 2, 3年）の授業で多読の趣旨を説明するとともに、多読用カードを印刷し、2004年12月中旬から1～3年の全学生にカードを持たせるとともに、2005年度から、指導項目の中に取り入れ、評価しようとの方針を立てた。

しかし、多読の習慣形成と、指導の発展への元年と位置づけていた17年度は、突然の人事異動により英語科5名の常勤教員の内、1名を欠いたままの体制で臨むこととなり、科としての人的余裕を失ってしまった。このため、当面、多読の規模は従来の指導（実施出来る学年、学級から）を維持しながら、その効果を検証し、今後に備えることとした。

## 2. 実験の方法

16年度は学生に○多読を強制しない、○図書の種類や難易度等に枠を設けず、自由に選択させ、読ませる方針でスタートした。このため多読は課外指導の意味

\* 一般科教授

\*\* 一般科助教授

原稿受付 2006年5月12日

あいが強く、学生の読書カード提出者も対象となる学生の半数程度にとどまった。

読書カードは B5 版サイズの用紙を用い、上部半面には学生や本に関する基本情報を知るため、学年、クラス、番号、氏名、本の登録番号、題名、本のページ数、読書にかかった時間を書く欄を設け、加えて自分が感じた面白さの度合いと、難易度を各々5段階で評価するようにした。下部半面には学生の読後感想文、これから読む人への推薦文、心に残った一節を日本語または英語で自由に書くようにした。本稿では、このカードに記されたデータに基づいて、学生の図書を選択傾向を分析、多読の効果を検証し、今後の指導方法のあり方を考察した。

17年度は多読を3学年が履修する Reading の科目である英語Ⅲのシラバスの中に位置づけ、指導の一環として読後のカード記入と提出を評価にも取り入れることを明記した。また自由に選択する本に加え、標準的な headwords の語数に基づいて図書を選択させ、課題として全員が読むことを強制した。この17年度型多読指導の効果の検証と16年度型との比較は、今後の課題とし、ここでは、16年度型のみを取り上げた。

なお、16年度は1、2及び3学年の学生が多読用図書を読み、担当の教員にカードを提出しているが、今後の17年度との比較を念頭に、3学年のデータのみを使用し考察した。

### 3. 平成16年度の多読カードから読み取れる選択傾向

#### 3-1. 被験データと概評

対象学生：3年165名（機械工学科40、電気電子工学科44、電子制御工学科40、電子情報工学科41）

多読カードの提出者87名（機械29名、電気23名、制御18名、情報17名）、

提出率：52.7%（3年生対象学生数に対する提出者数の割合）

提出カード数：272冊分（一人当たり約3冊分のカードの提出があった。）

感想の平均：「面白さ」について3.35点「難易度」について2.62点

「面白さ」の尺度は学生の主観的印象に基づいて、5の「面白い」から、1の「つまらない」まで5段階評価で評価されたものである。「難易度」についても、1の「やさしい」から5の「難しい」まで同じく学生自身の主観的印象で5段階評価されている。

個人の好みにより実に多種多様な本が読まれているが、全提出カードのうち、「面白さ」の度合いでは、5にマークされたものが26枚、4が105、3が93、2が35、1が13で平均3.4点であった。「難易度」では平易1のカードが54枚、2が72、3が86、4が44、5が16で平均2.6点であった。この数字から全体的読書傾向を読み取るとすれば、学生は易しめの本を、自分のペースで概ね楽しく読んだということができようか。

表1. 複数名（3名以上）により読まれた本

人数	図書名	面白度	難易度	シリーズ名、出版社表示レベル、ページ数	対象1)	標準レベル2)
6	Babe Pig in the City	4.0	4.0	Penguin Readers L.2 40 p.	初級	**
5	Kipper and the Giant	4.2	1.6	(NA)3)		
	Mr. Bean in Town	3.6	2.8	Penguin Readers L.2 25 p.	初級	**
	Pele	4.2	3.2	Penguin Readers L.1 13 p.	初級	*
	Titanic	3.0	3.2	Oxford bookworms Factfiles Stage 1	初級	*
4	American Life	3.8	3.0	Penguin Readers L.2 28 p.	初級	**
	Jumanji	4.0	3.0	Penguin Readers L2 39 p.	初級	**
	The Lost Key	3.3	2.8	(NA)		
3	Apollo 13	4.0	3.0	Penguin Readers L2 40 p.	初級	**
	Football Clubs of South America	3.0	3.7	Penguin Readers L2 27p	初級	**
	Michael Jordan	3.7	2.0	Penguin Readers L1 13p.	入門	*
	Survive	4.3	3.7	Oxford Bookworms Starters 30p.	大絵	0
	The Rainbow Machine	2.7	2.3	Oxford Reading Tree Stage 8, 32 p.	小低	0
	Marcel Goes to Hollywood	3.3	1.3	Penguin Readers, L1 13 p	入門	*
	The Treasure Chest	4.3	1.3	Oxford Reading Tree, Stage 6, 32p.	小低	0
	Vampire Killer	3.3	1.7	Oxford Bookworms, Starters 30 p.	大絵	0

## 3-2. 人気度の観点から

学生により選択された本の人気度を考察した。同一の本を複数の学生が読んだ本は42冊あり、内6名が選択した本は1冊、5名が4冊、4名が3冊、3名が8冊、2名が26冊あった。残りの158冊については、学生はそれぞれが違った本を選択しており、好みの多様さが窺える。

表1のリストに上がった16冊について学生の読後感想の内訳を見ると、「面白さ」4以上の割合(7/16冊)44%、難易度3点未満(8/16冊)50%である。

Penguin Readers では、L(level)1はBeginners向けの300headwords、L.2はElementaryで600headwordsの本である。Oxford Bookworms, Startersは250headwordsのイラスト、漫画の入った大人の絵本漫画形式の図書である。またOxford BookwormsのFactfilesシリーズはnon-fictionでstage1は400

headwords レベルである。Oxford Reading Treeは子ども向け、英国での小学校教材のstorybooksで250headwordsのなかに収まっている。このリストを見て、学生の関心を引く本は、内容に関する共通項を見つけるのは困難としても、250~600headwordsで書かれ、絵やイラストが入った、多くても40ページに収まる読み物であって、これらの本は、学生にとって概ね理解でき、それなりに楽しめる本で学生には人気があったと言えるのではなかろうか。

## 3-3. 面白さの観点から

## 3-3-1. 面白かった本

学生が感じた面白さに焦点を当ててみると、最高に面白かったとして5の評点を得た本は次の24冊であった。内訳は表2の通りである。表の中で、Babe Pig in the city、とPeleは2名の学生が挙げたものである。

表2. 面白かった本

図書名	面白度	難易度	シリーズ名	レベル	ページ数	対象	標準
American Life	5	3	Penguin Readers	L.2	28p.	初級	**
Apollo13	5	3	Penguin Readers	L.2	40p.	初級	**
Babe Pig in the city	5	4	Penguin Readers	L.2	40p.	初級	**
Babe Pig in the city	5	5	Penguin Readers	L.2	40p.	初級	**
Fluffy Goes to School	5	3	Hello Reader	L.3		小低	0
Fluffy Goes to Washington	5	3	Hello Reader	L.3		小低	0
Football Clubs of South America	5	3	Penguin Readers	L.2	,27p	初級	**
Frog and Toad all year	5	1	An I can read book	2	64p	小低	*
Goodbye Mr. Hollywood	5	4	(NA)				
Help	5	2	Cambridge English Readers	L.1	,32 p		*
Kipper and the Giant	5	1	(NA)				
Morris Goes to school	5	1	An I can read book	1	64 p.	小低	0
Mouse Tales	5	1	An I can read book		64 p.	小低	0
Nate the great and the missing key	5	2	(NA)				
Pele	5	2	Penguin Readers	L.1	13 p	入門	*
Pele	5	3	Penguin Readers	L.1		入門	*
Red Planet	5	2	(NA)				
Save Floppy	5	1	Oxford Reading Tree	Stage 8		小	0
Survive	5	5	Oxford Bookworms Starters		30 p	大絵	0
Tales of Horror	5	3	Macmillan Guided Readers: Elementary		63 p		***
The fat cat sat on the mat	5	3	An I can read book:	1	32p	小低	0
The Monkey's Paw	5	4	Oxford Bookworms Stage 1		39 p		**
The Treasure Chest	5	1	Oxford Reading Tree, Stage 6			小低	0
The Weather Vane	5	1	(NA)				
Why ducks sleep on the leg	5	1	(NA)				

これらの本を難易度で分けると「難易度」1が8冊 2が4冊 3が9冊 4が3冊,5が2冊となり,平均すると難易度は2.5点で,今回の統計での学生達が読んだ全体の難易度平均より,さらに易しめの本ということになる.ただし,難易度が4または5の本もこのリストの中に入っている.内容が理解でき,容易に読み進めるといった経験は授業で扱う教材の学習と違って面白く,読書の喜びと満足感を与えたのであろう.スピード感,読みの流暢さを形成する第1歩である.

### 3-3-2 面白みの欠いた本

「面白さ」を基準にして評価した場合,逆に読み手が1の評価を下した本は表3の13冊であった.

これらの本の難易度は1点が5冊 2点が4冊 3点が2冊 4点が0冊,5点が2冊で平均すると2.2点である.「面白さ」の度合い上位24の平均2.5点を更に易しくした本が選択されている.この数字から易しい本=読みやすい本ととらえて,読んでみたが,内容的に幼稚すぎて学生の興味関心を沸かすことがなかったことが一因ではなかったかと考えられる.その一方で,当然ながら,本の英語が本人の読解力のレベルに合わず,難しく,興味を失わせる原因となることもある.Titanicは映画化もされ,学生には馴染みあるストーリーで5名の学生が読んでいる.これら5名の学生の読後感での「面白さ」では,3.0点,「難易度」では3.2点とまずまずの読み物であったようであるが,

同じ本でも,この表にある学生にとっては,難易度が高く,選択を間違えたといえる.

### 3-4. 主観的難易度の実態

カードに表示された難易度はあくまでも,学生本人が判断する主観的なものであり,客観的,科学的尺度とはなりえない.このため,出版社が示すガイドラインと学生の判断する難易度との間にどのような関係が存在するか確かめてみた.

自分の読んだ本の難易度を5と判断したカードは16枚あった.このうち,Babeは2名が提出しており,重複するため,本の数としては表4の15冊が挙げられる.

学生が難しいと感じている本は幼児向けから,headwordsが1700語まで,学生の英語力に応じて幅が広く,出版社の標準と学生個人の印象の間には特別の相関関係は見出せない.個人差の大きさを改めて認識するだけである.通常授業での読解の指導は,全員同一の教材を一斉に読ませ,その理解度をテストによって測っている.しかし,この個人差をみると,一斉指導では,一人一人の学生に,英文を読む楽しさ,満足感,充実感を体験させてやることは難しい.英語力不足の学生にはますます英語嫌いを助長させていることになりかねない.この面での不足を補う個に応じた指導の一方法としての多読の果たす役割は少なくないと考える.

表3. 面白みの欠いた本

図書名	面白度	難易度	シリーズ名, レベル, ページ数	対象	標準
A Know-nothing Halloween	1	2	An I can read book Level 2 48 p	小低	*
Bugs, Beetles, and Butterflies	1	1	Puffin Science easy-to-read Level 1 32 p	小低絵	
Commerce	1	3	Oxford Bookworms Factfiles Stage 3 30 p	non-fiction	***
Death of a Soldier	1	1	(NA)		
Escape	1	1	Oxford Bookworms Starter 30 p	大絵	0
Floods	1	2	Hello Reader Science Level 4	小低絵	
Return to Earth	1	5	Oxford Bookworms 56 p		
Six Sketches	1	1	Penguin Readers New Edition Level 1 13	入門	*
The Barbecue	1	1	Story Street Step 9		
The Ghost of Genny Castle	1	3	Penguin Readers Level 2	初級	**
The Rainbow Machine	1	2	Oxford Reading Tree Stage 8 32 p	小低	0
The Willow Pattern Plot	1	2	(NA)		
Titanic	1	5	Oxford bookworms Factfiles Stage 1	初級	*

表 4. 主観的難易度 5 の本

図書名	シリーズ名	ページ数	対象	標準
A Snake Mistake	(NA)		幼児向	
Babe	Penguin Readers	L.2 40 p	初級	**
I, Robot	(NA)			
Men in Black	Penguin Readers	L 2	初級	**
Nate the Great and the Fishy Prize	(NA)			
Pele	Penguin Readers	L 1 13 p	入門	*
Return to Earth	Oxford Bookworms	Stage 2 56 p	初級	**
Survive	Oxford Bookworms	Starters 30 p	大絵	0
The Lost World	(NA)			
The Picture of Drian Gray	Oxford Bookworms	Stage 3	中級	***
Titanic	Oxford Bookworms Factfiles	Stage 1 22 p	初級	*
Treasure Island	Oxford Bookworms	Stage 4	中級	****
Twister and Other Terrible Storms	Magic Tree House Research Guide		小.上	
Under the Moon	(NA)			
White Death	(NA)			

#### 4. 課題と展望

##### 4-1. 学生の読後感から

多読カードの感想欄（自由記述）にあるコメントについて、記述のある 100 枚のカードについて学生の感想を整理してみた。以下の項目 3 の「面白くなかった」と記述した 13 名と項目に該当しない別のコメントをした 5 名を除いてすべてのカードは多読を肯定した感想であった。自由に選択した本であるため、概ね楽しめて読めたようである。文章の語彙数を抑え、絵や写真等がふんだんに使用されてストーリーの理解を助けていることが本の読みやすさにつながったケースも多い。彼らの感じた満足感、充実感は次のような記述の中に読み取ることができる。

（多読カードの感想欄の記述より）

1. 読みやすかった：55 名（他項目と重複あり→本項目 43 名+他項目 12 名）

(1) 絵や漫画、写真が理解の助けとなっているため。  
(19 名)

(2) 単語や英文が簡単である。(13 名)

(3) 内容 (Story の展開、説明等) がわかりやすいため。(8 名)

(4) 内容が予めわかっているため。(映画で見たことがあり、単語も場面も想像しやすい。)(3 名)

2. 面白かった(楽しんだ、感動した)：19 名

(1) 内容そのものが面白い (11 名)

(2) 簡単に読めて、わかるので面白い (8 名)

3. 面白くない：13 名

(1) 英文が難しくて、理解できなく面白くない (7 名)

(2) 内容(話が単純、映画等で story がわかっている)が面白くない (6 名)

##### 4-2 英語学習に関連した多読の効果について

学生自身から以下のような英語学習における多読の効果が挙げられている。

(1) 読むスピードがついてきた。(1 名)

(2) まとまった分量を読むことができた。(2 名)

(3) 文脈から推測して、内容の判断ができるようになってきた。(5 名)

(4) 語彙が増えた。(3 名)

(5) 英語の苦手意識が薄らぎ、自信がでてきた。(1 名)

(6) 英語への興味が高まった。(4 名)

(7) 読んだ本のトピックへの関心、他文化への好奇心が高まった。(8 名)

##### 4-3. 課題と展望

本校では、平成 18 年 1 月 13 日に実力テストの一環として、第 4 学年を中心に 222 名が TOEIC IP テストを受験した。テストの総合平均得点は 352.5 点であったが、この内、リスニングが 220.7 点に対しリーディングは 131.7 点であり、トータルスコアに対する構成比は 62.6 : 37.4 とリスニングの得点が先行している。また到達度でみると、リスニングは 44.6% に対しリーディングは 26.6% と低い。

平成 17 年度に全学年の希望者を対象に実施した本校の TOEIC IP テストも同様の傾向を示している。

表 5. 平成 17 年度 長野高専の TOEIC IP テストにおける領域別達成度

TOEIC IP	受験者数	リスニング (得点/495 満点)		リーディング (得点/495 満点)	
		対総合点の構成比	到達度	対総合点の構成比	到達度
第 1 回 (5 月)	99 名	61.5%	44.8%	38.5%	28.1%
第 2 回 (7 月)	76 名	60.0	42.2	40	28.1
第 3 回 (10 月)	30 名	59.1	44.0	40.9	30.5
第 4 回 (12 月)	41 名	58.0	48.7	42	35.3

本校カリキュラムから、普通の英語授業がかなりリーディングに傾斜したものであることを考えると、表に見られる割合はあまりに低く、意外である。ただし、TOEIC IP テストでは、回を追うたびに到達度が若干向上し、総合得点に占めるリスニングとリーディングの比が縮小する傾向がみられる。これらの数字が持つ意味を次のように理解してみた。

読解力の指導において、授業では時間をかけて内容を正確に読む専ら精読が中心となっている。しかしながら、それだけでは学生の実用的読解力の伸長につながっていない。いわゆる読解のスピードと流暢さが身につけていないからである。学生には授業で学んだ reading skills について、その skills を磨く訓練の時間と機会の提供が必要である。この保証がなくては実際の、実践的な読解力はなかなか備わってこない。TOEIC 等の外部試験では、実践的なスピードある reading の流暢さが問われている。多くの学生にとって初めての TOEIC テストでの得点が伸びなかったのも、このためと考えられる。多読の目標はその reading skills を伸長させる機会を与えることである。今回の学生の感想からも多読という方略がその skills 育成に効果が期待できることがわかる。それ以上に、多読は、学生達にとって学習意欲、モチベーションの高揚に大いに資する手段となりえることが再確認できた。

今回はサンプル数が少なく、カードを提出した学生にとっては、好評であった多読であるが、カードを提出しなかった学生についてはどうなのか。今後、更なる実験と検証により、多読の学習効果を高めて、より多くの学生にその効果を実感させる指導をシステムタイズする方法を考えていく必要がある。また、学校の多読指導は、各自に自由に読ませ、制限を設けず、全く学生の判断と自主性にまかせていくのがよいか。それとも controlled(guided) extensive reading を選択すべきなのか。この点は 17 年度の実践例との比較に基

づいて考察を継続したい。本校で指導体制を整備する上で、

○学生達に本のレベル、タイプ (内容) がわかるガイドを作成し、自分の進歩がわかるようにする (自己診断ができる。)

○読書カードに記された感想文、推薦文を現在図書館の図書目録に追加し、または何らかの方法を使って学生が本に関する情報を検索できるようにする。

この 2 点をまず実現したいと考えている。

(注) 表の読み方

- 1) 「対象」欄の小は (英米) 小学生向け 幼は (英米) 幼児向け 小低は (英米) 小学校低学年向け、小上は小学校上級学年用 大は大人、絵は絵、イラスト入り、漫画形式のもの。入門は生徒・学生達英語学習者対象の入門用のもので、初は初級者用、中は中級者用である。
- 2) 「標準レベル」欄の図書の難易度のレベル判定については、当該出版社各社のガイド及び、SSS 英語学習法研究会：「SSS 推薦・多読用基本洋書のご紹介」Ver.3.41 古川昭夫を参照した。次のレベルの区切りを使用した。

<http://www.seg.co.jp/sss/review/osusume.html>  
2005/08/26

レベル 0 : Headwords が 250 語まで

レベル\* : Headwords 500

レベル\*\* : Headwords 800

レベル\*\*\* : Headwords 1300

レベル\*\*\*\* : Headwords 2000

- 3) 学生の提出によるカードから出版社名等未記入のもの、本が個人所有であり、図書館の所蔵でないなど、情報不明の図書は NA の記述とした。